



明日へ

平成21年3月18日発行
児童養護施設 鎌倉児童ホーム
(発行責任者 園長 渡邊優)
〒248-0017
神奈川県鎌倉市佐助1-6-6
電話 0467-22-0424

ごあいさつ

鎌倉児童ホーム園長 渡邊 優

三寒四温の日々が続いておりましたが、いよいよ春の息吹きが感じられ、早くも各管区気象台からは桜(ソメイヨシノ)の開花宣言が出されています。皆さま方におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、折角の機会でございますので、児童ホームの近況を報告させていただきます。

- ① 現在の園舎での生活を定員88名(11名の部屋8室)でスタートさせていただき、6年が経過いたしました。国の施策として児童養護施設のケア形態の小規模化の推進が図られまして、当初は「小規模なグループによるケア人数は15名までは一定の条件の中で認められ、予算措置もありました。」が、平成20年度末をもって終了され、新たに「その単位は、原則として6名とする。」との実施要綱の改正がありました。これに伴いまして、職員間で種々検討をいたしました。万やむを得ず、ナザレの児童数を6名とすることに集約し、平成20年11月に開催されました理事会・評議員会にお図りし、県当局にも賢察していただき、新年度から80名定員とする運びとなりました。
- ② 現在、2009年の重点項目の目標設定を全職員参加のもと行っておりますが、主な項目といたしましては、“ブロック間課題の共有・助け合い・チームワーク” “性教育指導の展開” “スタッフメモリーの体系化・意識強化” “児童自立支援システムの導入(準備)” “ワーキングルームの改修(宿直体制改善)”等が予定されています。
- ③ 3月7日には卒園式を執り行い、今年は高校生の男子3名と女子1名(進学1名・就職3名)の児童が、関係者のご協力があり、それぞれの目的に向かい旅立ちをいたしました。昨今の厳しい社会情勢の中で、早々に進学先・就職先が決まり、ご本人は勿論のこと私たち職員も喜びを共にしているところでございますし、これからのフォローにも万全を尽くしたいと思っております。
- ④ 施設のモットーといたしましては、組織一丸になり、「あいさつ」の励行と「和」を図って参りたいと思っております。

間もなく迎える4月から順次多数の子どもたちが仲間入りをしてくれる予定です。

新年度につきましても、鎌倉児童ホームが世間の皆様にお約束しております、“子どもの人権を守り、自立支援”の推進をして参りますので、皆様方の更なるご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

鎌ホのケアのモットー

事務所は子どもたちのオアシスです

事務長 秦 晴彦

児童養護施設の事務員（法令では書記となっております。）は、1名の配置が義務付けされてます。

鎌ホでは、事務所に机を置いている職員さんは、ファミリーソーシャルワーカーさん・心理職員さん・栄養士さんの3人と朝食調理員さん1名（午前中のみ調理後の空いた時間で営繕）と私の5人が仕事をします。朝9時から夜21時までの12時間、基本毎日開けていないといけないで、夜の時間帯（17時から21時）には各日1名のサポートをお願いしています。

事務員の仕事は基本的には会計帳簿をつける仕事になりますが、庶務全般が仕事の守備範囲になるので、あらゆることに気をまわしていないといけない仕事です。

子どもへのケアはケア担当の先生がいらっしゃり、基本的に子どもは用事がないと事務所にきてはいけなような決まりがあるので、子どもとの接点は薄いのですが、今年度は、引率や行事として富士山登山、野球観戦、コンサート鑑賞、マラソン大会、あすなろ交歓会で子どもと一緒に過ごすことができました。

事務員としての今年の目標は「一所懸命に遊ぶ」と掲げましたので、事務員のやらなければいけない仕事は確実にやりながら、目標を達成したいと思います。



高校生のバンドでは事務長も演奏します！

性教育委員会本格始動 ～性から生へ～

ケア担当 山崎 弘嗣

鎌倉児童ホームでは、昨年度一年間の準備期間を経て、今年度から性教育に取り組み始めました。まだ右も左も分からずに足取りはおぼつかなく、戸惑いと挫折の連続ですが、そのような頼りない状況の中でも、徐々に「性教育とは生教育なんだ」ということが実感として分かってきました。

そう感じるのは、性に関する事柄は、どれも他者との関係を抜きには考えることができないと思うからです。性教育に向き合うと、そこでは必ず、社会と人との関係を考えたり、人と人との関係を考えたりする機会に直面します。当然、その過程では自分自身についても思いを巡らせることになるわけで、“性”を考えるつもりが不可避免的に“生”を考えることになっていきます。逆に言えば、「他者との関係の中で自分はどう生きるのか」という“生”に対する取り組みをする中で、その一部に“性”に関する事柄も出てくるのです。

その時に大切なのは、“生”を前向きにとらえる下地が、その人の中にあるかないかです。下地とは、自分自身のことを「好き」と思える観念（自己肯定観）だと考えています。自分自身のことを好きと思えば、自分自身のことを大切にできるはずで、自分自身の“生・性”はもちろんのこと、他者の“生・性”も大切にできるはずと考えています。

「性教育とは生教育であり、その下地となる自己肯定観にどのように迫れるか」が課題になってくるのだと考えています。鎌倉児童ホームでは、今年度から始まったこの性教育を大切に考え、試行錯誤しながら全職員で取り組んでいます。

ソフトボールの活動を通して

ケア担当：山神 裕一郎

私がホームのソフトボールの監督をさせてもらってから今年で10年になります。

はじめて受け持った10年前は小4～中3の女兒は全員参加となっていました。当然、レベルは非常に高く、夏の児童福祉施設対抗の大会では常に上位に入っていました。

時代の流れもあり、チーム運営は全員参加制から希望制へと徐々にシフトしていくことで集まる人数も少なくなり、レベルも落ちていきました。

ですが、チームの活気がありました。自らやると決心した子ども達で作ったチームだったので、いわゆる“やらされてる感”がなくなりました。「やるからには一番上を目指そう！」「たとえ弱くても一番声を出せる一番はじめある気持ちの良いチームを目指そう！」そう子どもたちには伝え、今日まで取り組み続けています。

今年度の大会も出場予定でしたが、数日前に出場を辞退しました。直前になり「辞める」と言う子が何人か出てしまい、人数が9人揃わなくなりました。「技術のレベルが揃っている必要はないが、気持ちの温度が揃っていないチームでは参加する意味がない」、そう考えて今回はそのような決断をしました。

児童養護の流れとしては、小規模化、個別化、地域化がすすんでおり、施設としてのこのような活動はどちらかといえば縮小していく傾向にあります。ですが、このような活動によって伸ばせる子どもがいる限りは細々とでも続けていってあげたいと思っております。

さて、来年は9人そろおうのでしょうか…。それが一番の問題です。

「ぴかりホット」とは

ケア担当 豊本 洋平

「ぴかり（職員がアイデアを持ち寄って）」

「ホット（素敵な時間を過ごせて心が温まる）」することで職員の和を大切にしていこうという試みで

「ヒヤリハット」と同様に大切にしています。

毎月、第4週の水曜日に20分ほどの時間をかけていろいろなことに取り組んでいます。

今回は最近のものを4つ紹介させていただきます。

☆池田（シオンの家担当）による「ラーメン二郎インスパイケア方式」とは？

「大盛りラーメンを怯まずに食べきる達成感を大人と子どもが共感することが希望となり明日への糧となる」など盛りだくさんです。これはおススメです。

☆心理職による箱庭療法紹介

ケア職員も療法を体験しました。心理職からの言葉には誰もが「納得」でした。

☆栄養士のお仕事紹介

クイズ形式でカロリー計算を体験。

日頃の食生活の感覚よりも少なめに見積もってもカロリーオーバーの職員が続出！？

☆調理員のお仕事紹介をクイズ形式で！

コロケ100人分に必要なジャガイモの数は？ 正解者は一人だけでした。

「ぴかりホット」にぴったりのことがございましたらご紹介ください。

～ 児童福祉法改正に思う ～

総括主幹 村岡 薫

昨年 11 月に成立した「児童福祉法等の一部を改正する法律」(以下「改正法」)が、この 4 月より施行されますが、その第 33 条 10 項に被措置児童等虐待の防止等の条文が盛り込まれます。改正法に定義された被措置児童等虐待についての定義をみると、それは「児童虐待の防止等に関する法律」において定義されている『児童虐待』の定義とほぼ同様です。

このことは、児童福祉施設の現状が子どもを護りきれていないばかりか、社会的におこる虐待問題と同列に法制化することが必要なほど、危機的な状況にあるということです。

鎌倉児童ホームにおいてもそのことは同様であり、子どもたち一人ひとりを受けとめ、育み、癒しという体制が十分にとれないばかりか、ともすると大人の方が余裕をなくし、追い込まれ、心身のバランスを保つことが難しいことが多々あります。ましてそのなかで現実の生活は、ほぼ 1 人の大人に 10 人余の子どもたちの養育です。「受け止めて～!!」という 10 余りの声が 2 つの耳に絶えず飛びこんでくる日々が続いています。

加えて、国施策として打ち出される小規模、小グループ化は、十分な注意を払わないと核家族における親の抱える課題と同じように、養育現場の閉鎖的構造によるハイリスクな状況を生みます。いや、すでにそのような状況になってきていると言えるでしょう。

私たちはそのことをたえず認識し、少しでも余裕を持てるようにボランティアの方々の力をお借りし、第三者の方々の目で見えていただくことでも、自分たちが盲目的にならないように注意を払っていきたくと考えております。

とはいえ、子どもたちにしっかりと育ててほしいという思いも変わりません。伝えるべきことは思いを尽くして伝え、ときには立ちはだかりながら、一人ひとりが良い未来を切り拓いてくれることを願っています。職員全体で工夫としくみを整えながら、限られたマンパワーのなかで不適切な関わりにならず、かつ子どもをよく導いていける養育を目指し続けたいと思います。

あたたかく、そして厳しく、今後とも見守っていただければ幸いです。



今年度は写真の 3 名を含めて
4 名が卒園しました。

ボランティアさん大募集!

鎌倉児童ホームでは、定期的に来ていただけるボランティアさんを募集しております。「1 対 1 の学習ボランティア」「清掃なども含む家事のボランティア」「子どもたちの日常生活に関わっていただく生活ボランティア」など様々な形でご協力いただきたく思います。

お問い合わせは鎌倉児童ホーム (電話: 0467-22-0424 E-mail: kamakura@seionkai.or.jp)

担当: 山神 まで